現場的映画講座

日本を代表する脚本家たちによる、《脚本編》

脚本家 田中陽造

聞き手：井川耕一郎（脚本家／映画監督）

1/23 FRI

18:30~上映『セーラー服と機関銃』
相米慎二監督・1981年・112分

20:30~対談 田中陽造×井川耕一郎

脚本家 荒井晴彦

聞き手：井川耕一郎

1/24 SAT

14:00~上映『噂む女』
神代辰巳監督・1988年・102分

15:30~対談 荒井晴彦×井川耕一郎

脚本家 西岡琢也

聞き手：青山真治（映画監督／小説家）

1/25 SUN

14:00~上映『ガキ帝国』
井筒和幸監督・1981年・115分

16:00~対談 西岡琢也×青山真治

観客のための映画術

良いシナリオから、悪い映画が出来ることもある。
しかし、いかなることがあっても、悪いシナリオから、
良い映画が出来ることはない。—伊丹万作・映画憲法第1条

主催◎ユーロスペース
協力◎協同組合日本シナリオ作家協会

脚本家 高橋洋

聞き手：井川耕一郎

1/27 TUE

18:30~上映『リング2』
中田秀夫監督・1989年・95分

20:15~対談 高橋洋×井川耕一郎

脚本家 山田太一

聞き手：未定

1/26 MON

18:30~上映作品未定
決まり次第HPに掲載します
www.eurospace.co.jp/eurolive/

20:30~対談 山田太一×？

会場 EuroLive by EUROSPACE
渋谷駅下車 Bunkamura 前交差点左折 EUROSPACE 内

12月27日よりチケット発売開始！

現場的映画講座《脚本編》

日本を代表する脚本家たちによる、観客のためのの映画術

映画は共同制作の芸術です。かりに映画の制作過程を知ったからといって、映画を深く理解したことにはならないのも恐らく真理でしょう。しかし映画ファンにとって、各々のスタッフがどういう技術と思いをもって制作に参加しているかは、永遠のファンタジーです。この講座では、観客がメディアや舞台挨拶で触れる機会の少ない、映画・ドラマ制作のプロフェッショナルたちの話を聞いていきます。

田中陽造

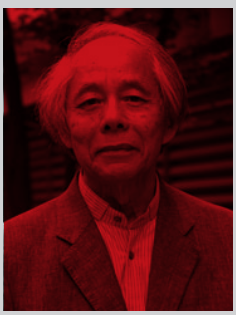
1939年生まれ。東京都出身。早稲田大学在学中に稲門シナリオ研究会で大和屋竺と知り合う。日劇ミュージックホール演出部を経て、日活入社後、鈴木清順を中心とした脚本グループ「具流八郎」に加わり、67年『殺しの烙印』でデビュー。にっかつロマンポルノの『花と蛇』(74)などの脚本を多数執筆し、その全盛期を支えた。76年、曽根中生監督の『嗚呼!!花の応援団』シリーズをヒットさせる。また、鈴木清順監督の『ツィゴイネルワイゼン』(80)、『陽炎座』(81)や、相米慎二監督の『セーラー服と機関銃』(81)、『魚影の群れ』(83)、『夢二』(91)など、両監督の作品を多数手がける。その他『黒いドレスの女』(87・崔陽一監督)、『居酒屋ゆうれい』(94・渡邊孝好監督)などの脚本を担当。最近では『ヴイヨンの妻~桜桃とタンポポ』(09・根岸吉太郎監督)や、『最後の忠臣蔵』(10・杉田成道監督)で日本アカデミー賞脚本賞を受賞。

荒井晴彦

1947年東京生まれ。68年「鈴木清順問題共闘会議」をきっかけに小川徹編集の「映画芸術」誌スタッフに加わったのち、70年代「赤いピンク映画の巨匠」若松孝二のプロダクションで足立正生と共にシナリオ執筆。「赤軍PFLP」の全国上映運動を経て若松プロ離脱。ピンクの助監督を経験したのち、田中陽造のもとで商業映画のシナリオを学ぶ。77年『新宿乱れ街いくまで待って』でデビュー。『赫い髪の女』(79・神代辰巳監督)、『遠雷』(81・根岸吉太郎)、『Wの悲劇』(84・澤井信一郎監督)などで日本を代表する脚本家に。その後も『リボルバー』(88・藤田敏八監督)、『ヴァイブレータ』(03・廣木隆一監督)、『大鹿村騒動記』(11・阪本順治監督)、『共喰い』(13・青山真治監督)などで脚本賞を数多く受賞。89年から「映画芸術」編集長。97年『身も心も』で初監督。現在17年ぶりの監督作『この国の空』を制作中。

西岡琢也

1956年京都府生まれ。関西大学法学部在籍中にピンク映画の現場で助監督・シナリオを担当する。1979年『暴行魔真珠責め』で脚本家デビュー。以降井筒和幸監督『ガキ帝国』(81)、相米慎二監督『ションベンライダー』(83)、高橋伴明監督『TATTOO〈刺青〉あり』(82)、井筒和幸監督『犬死にせしもの』(86)、平山秀幸監督のデビュー作『マリアの胃袋』(90)などの話題作を次々と執筆。その一方でVシネマの大ヒット作『ネオチンピラ 鉄砲玉ぴゅ~』(90・高橋伴明監督)で初主演の哀川翔を一躍Vシネの大スターに。その後は数多くのTVドラマを書き、『鬼太郎が見た玉砕~水木しげるの戦争~』(07)で文化庁芸術祭テレビ部門ドラマ部優秀賞等を受賞。その後の映画脚本に『秋深き』(08・池田敏春監督)、『沈まぬ太陽』(10・若松節朗監督)、『太平洋の奇跡-フォックスと呼ばれた男-』(11・平山秀幸監督)などがある。

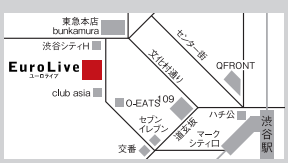


山田太一

1934年東京浅草生まれ。早稲田大学卒業後、松竹大船撮影所入社。演出部で木下恵介監督の助監督として師事。1965年に脚本家として独立。『それぞれの秋』(73)で芸術選奨新人賞受賞。76年、NHKの脚本家の名前を冠した脚本家シリーズ第1弾、〝山田太一シリーズ〟『男たちの旅路』は人気を博し、82年まで断続的に継続された。以後約半世紀にわたって、「岸辺のアルバム」「早春スケッチブック」「ふぞろいの林檎たち」「キルトの家」など多くの名作テレビドラマを手がける。83年の「ラヴ」で、舞台脚本を初めて執筆。小泉八雲を主人公にした『日本の面影』(84)は向田邦子賞を受賞し、93年に自身の脚色で舞台化され、01年にはダブリンとロンドンでも上演されている。テレビ脚本のほかにも、戯曲、小説も発表。88年『異人たちとの夏』で山本周五郎賞を受賞。2014年には自伝的エッセイ集『月日の残像』で小林秀雄賞受賞。

高橋洋

1959年生まれ。学生時代は早大シネマ研究会に所属、『夜は千の眼を持つ』など8ミリ作品を発表。映画同人誌「映画王」の編集にたずさわる。『暗い部屋のロミオとジュリエット』(77)で脚本を担当。90年、森崎東監督のテレビドラマ『離婚・恐婚・連婚』にて脚本家デビュー。のちに中田秀夫監督とのコンビで『女優霊』(96)、『リング』(98)、『リング2』(99)の脚本を担当。さらに『呪怨』の監修者として世界にとどろいたジャパニーズ・ホラーブームの牽引役となる。『女優霊』はハリウッドでもリメイクされた。他の脚本作品に北川篤也監督『インフェルノ 蹂躙』(97)、黒沢清監督『蛇の道』(98)、堤幸彦監督『新生 トイレの花子さん』(98)、鶴田法男監督『リング0 バースデイ』(00)、佐々木浩久監督『発狂する唇』(00)、同『血を吸う宇宙』(01)、鶴田法男監督『おろち』(08)など多数。また著書に「映画の魔」(04・青土社)がある。



12月27日よりチケット発売開始！ 全自由席(178席)／券面記載の整理番号順に入場

入場料 当日券1回券：一般1,800円 会員1,500円 学生1,200円 高校生800円
前売券1回券：一般1,600円 会員1,300円
3回券(ユーロスペース窓口のみで販売)：一般4,500円 会員4,000円

[チケット取扱い] ユーロスペース(同ビル3階)○窓口販売 12:00~20:00 ○WEB www.eurospace.co.jp/eurolive/
○電話予約(平日10:00~18:00):0120-240-540(カンフェティチケットセンター)

EuroLive
www.eurospace.co.jp/eurolive/

渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折 渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F ユーロスペース内 ☎03-3461-0211 @eurolive